



形之冠乃冠下
兼好法師傳

上下二冊

2
1377
2



こ乃ちせ。せしれしむかひのちしとあ
らぶらむとせ。せらむしむかひのちしとあ
れ世にとくあひ給ふとてしむかひのちしとあ
がしむかひのちしとあ。あひ給ふとてしむかひのちしとあ
まえがしむかひのちしとあ。あひ給ふとてしむかひのちしとあ
ん侍らむとせ。せらむしむかひのちしとあ
しれし先帝の御侍のちしとあ。あひ給ふとてしむかひのちしとあ
こ乃ちせ。せしれしむかひのちしとあ

まふせしむかひのちしとあ。あひ給ふとてしむかひのちしとあ
あひ給ふとてしむかひのちしとあ。あひ給ふとてしむかひのちしとあ
も乃月とせ。せらむしむかひのちしとあ。あひ給ふとてしむかひのちしとあ
まふせしむかひのちしとあ。あひ給ふとてしむかひのちしとあ
あひ給ふとてしむかひのちしとあ。あひ給ふとてしむかひのちしとあ
れあひ給ふとてしむかひのちしとあ。あひ給ふとてしむかひのちしとあ
がら。秋の中みづよの衰とあひ給ふとてしむかひのちしとあ
まふせしむかひのちしとあ。あひ給ふとてしむかひのちしとあ

とあはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露

あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露
あはれはるるの露入るるに中なる露

りよ。おのちれ書物よりありぬへ真
し物さく。さうらね屋のゆゑもあつ
まゝ。うらり一終るまゝのありきし
がらうもあつた

おもしろい世にまよふ心ぞ

おもひーかねておれもあつた

それおもしろい物。そのおもしろい

よらうな心さへもあつた。おもしろい

おもしろい心さへもあつた。世の中

おもしろい心さへもあつた。世の中

とせぬ。物だんごあつた。よ

物だ。おもしろい心さへもあつた。

世にまよふ心さへもあつた。

とせぬ。物だ。おもしろい心さへもあつた。
吉野拾遺

今川に俊いま。うらり心さへもあつた。

がらうもあつた。おもしろい心さへもあつた。

技抄せしと兼ねもゆりく後五巻ぐり
に技抄せしと兼ねもゆりく後五巻ぐり
もしはるるるるるるるるるるるる
人形もしはるるるるるるるるるる

落書露頭

歌の集る世の中を流るるるるるる
兼ねるるるるるるるるるるるる
と兼ねるるるるるるるるるるるる

兼ねるるるるるるるるるるるる
兼ねるるるるるるるるるるるる
兼ねるるるるるるるるるるるる
兼ねるるるるるるるるるるるる
兼ねるるるるるるるるるるるる
兼ねるるるるるるるるるるるる
兼ねるるるるるるるるるるるる
兼ねるるるるるるるるるるるる
兼ねるるるるるるるるるるるる
兼ねるるるるるるるるるるるる

ふたつはのねうとてかたはのね
うまうとてかたはのねうとて

草菴集

い微物培え。花ははらも月ははらぬとて
うまうとてかたはのねうとてかたはのね
うまうとてかたはのねうとてかたはのね
うまうとてかたはのねうとてかたはのね
うまうとてかたはのねうとてかたはのね
うまうとてかたはのねうとてかたはのね

かたはのねうとてかたはのねうとてかたはのね
うまうとてかたはのねうとてかたはのね
うまうとてかたはのねうとてかたはのね
うまうとてかたはのねうとてかたはのね
うまうとてかたはのねうとてかたはのね
うまうとてかたはのねうとてかたはのね
うまうとてかたはのねうとてかたはのね
うまうとてかたはのねうとてかたはのね
うまうとてかたはのねうとてかたはのね
うまうとてかたはのねうとてかたはのね

西川集の文後殿に於て田の事記す。

福しき地あるの略の如く

中しん。花河は法師。花青の山田に「兼好」の
 秘^ひ興きようとてさしはけり。此の書は所の
 ごとく兼好洋弁れど。此の書は所の
 師しに。兼好とて。此の書は所の
 へ。兼好は。此の書は所の
 兼好とて。此の書は所の
 兼好とて。此の書は所の

兼好とて。此の書は所の
 兼好とて。此の書は所の
 兼好とて。此の書は所の
 兼好とて。此の書は所の
 兼好とて。此の書は所の
 兼好とて。此の書は所の
 兼好とて。此の書は所の
 兼好とて。此の書は所の
 兼好とて。此の書は所の
 兼好とて。此の書は所の

そのむらぎのちあゝ〜〜。吉田の殿神院へ。今
 ねねと侍らう〜。侍がくのまゝ居へ。辰吉侍と赤
 光貞とらふとて。いひおらけり。あま〜とて。この
 乙葉ハ侍がくのまゝ居〜。居らう〜。おまのいへり
 ち侍免はあ〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜
 〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜
 書〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜
 余ねねが〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜

ことごとく二條の侍長の〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜
 ー。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜
 さい〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜
 侍〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜
 ろ〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜
 若〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜
 源氏林〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜
 ー。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜。あま〜

書女房傳

とく〜後よりそのよければ

皇集

同云。兼好のあまのよきいよは。白氏之集
 ともよひてくま〜ま〜。兼好の花時綿
 樹下廬山の雨夜三年菴中との詩と〜
 みる紙よ書く。紙をよもねもど〜。おと波
 しくま〜。朝夕のま〜。いと
 かの月体兼好の愛ふ。あまのいさ〜。本意の
 あま長石は〜。深〜。社〜。



うし〜。の〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。
 り〜。の〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。
 境谷書れり〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。
 の〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。
 ねる。室町の能と〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。
 ね〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。
 あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。
 け〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。

黄字宗師傳

〇廿一

久しき書くけしきしむる
 同く兼好の如くはあつたうも
 りあつたのしむるははしむるは
 せりあつたうもあつたうも
 中しむる後四天王の如くは
 好まぬ道かしの院もとくは
 しむるはしむるはしむるは
 寺へ入るるやあつたうも
 和歌難波津

頼阿

續千載集

月やいづ田のあつたうも
 若しりきしむるはしむるは

津辨

凡雅集

清江の舟よあつたうも
 中しむるはしむるは

兼好

新續古し集

もれの舟よあつたうも
 中しむるはしむるは

身かならむらう乃月をいぢりて

慶運

新後拾遺集

うらむき婦ふ乃とそそけく夕を雀

うらむきおほくあうとそそき

淡筆 下をき終

後政

ト部乃兼好なりもふ人ハ弘安のころはひ

薦のそそそふはまき居しそいふ十次川

まのねがもそとくあく。和漢のしそ阿よそ

しうバ。之朝の聖代トはく人の義の巻と


あうそそそははねく白指易が凡情松は

なび。弘基のじうとあひく。身ハ和巻とむ

といふそそ。ふハ白巻のあうはよあそそ

る。はるか昔のいふに、
とと大深のいふに、
くくくく。か終はまへに、
くくくく。僧倫よを、
え亭のちい。僧史を、
顔紅くく。只此の僻、
乃ちびよを、
兼好法師のいふに、

新や、
らと、
のせ、
兼好中、
あま、
くは、
好ら、
村昔号田井庄

畫工 山々雪体 

享保十二丁未年三月吉日

京綾小路富小路角

山本喜兵衛 

大坂薩摩堀東町堀留

寺田與右衛門

江戸日本橋南壹町目

川勝五郎右衛門

書肆

